

令和 2 年度 授業改善推進プラン

1 プラン作成の経緯

(1) 身に付けさせたい学力，目指す授業の設定

学校経営計画, 学力向上推進計画を踏まえ, 「身に付けさせたい学力」, 「目指す授業」について以下に重点を置くこととしました。

<身に付けさせたい学力>

- ・基礎的な知識と技能, 及び, 自分で考え, 行動する力。
- ・将来に向け, すすんで体を鍛える力。

<目指す授業> (授業改善の観点)

- ・どの子にも分かる授業の工夫
- ・運動への関心・意欲の向上

(2) 現状の把握

前述の「身に付けさせたい学力」「目指す授業」の視点を念頭に置き, 以下の方法で現状把握を行いました。

教科等	方法
算数	東京ベーシックドリル (8/24~28 に実施) の結果を分析する。
体育	普段の授業等の様子から分析する。
国語 社会 理科 生活 音楽 図画工作 家庭 外国語活動	児童・生徒の学習・評価に関する資料等を参考資料とする

2 授業改善の具体的な方策

前述の手順を経て, 今年度本校では以下のように授業の改善策を講じ, 実践することとしました。

【国語】

大体的内容把握はできるが、書き手の意図を読み取る部分に課題を残す傾向が全学年に渡ってみられる。

(5・6年) 本文全体を読んだ後、もっとよく知りたいことやわからないところ、なぜと思えるところを見付け、児童自身が「読みたい」という気持ちを強くもてるようにする。更に、中心となる言葉や叙述に着目して読むように視点を与え、書き手の意図にまで気付けるようにする。

(3・4年) 本文の言葉にこだわって、どの叙述からそう考えたのかを明確にしながらかえらるるようにする。更に、カギとなる言葉に注目しながら、人物の気持ちの変化を場面のつながりで考えたり、人物の行動や会話文から人物像を捉えたりすることができるようにする。

(1・2年) 分からない言葉を動作化して、共通確認できるようにする。更に、くりかえし出てくる言葉や段落の中から最も大事な言葉を見付けることができるようにするとともに、並行読書を行うことで、語彙力や想像力を豊かにする。

【社会】

多くの児童が基礎的な知識を定着させている反面、資料の読み取り、自分の考えの付け加え、及び、自ら問いを見出し解決していく部分について課題を傾向がどの学年にもみられる。

(6年) 児童が興味・関心を高める資料を工夫し、日常生活と結び付けながら社会的事象をより深く実感し、学習の達成感を感じられる授業を展開する。

調べて分かったことや考えたことをまとめ、表現する機会を今後も設定し続ける。ノートを上手にまとめられている児童の例を取り上げる。

(5年) 児童が興味・関心を高める資料を工夫し、日常生活と結び付けながら社会的事象をより深く実感し、達成感を感じられる学習を展開する。学習課題を設定する経験を積ませ、主体的に学習しようという意識を積み上げていく。

(4年) 生活の中で興味・関心をもちながら生活の仕組みについて調べまとめることができるようにする。更に、調べたことを友達と交流し、理解へと繋げていく。

(3年) 身の回りの人たちの環境に興味をもち、調べまとめていけるよ

うにする。

【算数】

(6年) 児童は算数の学習に対して意欲的で算数の学習の有用性を感じている。それと比較して「知識及び技能」が伸び悩む現状がある。そこで、児童の意欲や思考力をさらに伸ばす「考える価値のある問い」を授業で児童とつくとともに、学んだことのまとめを児童の言葉で作らせたり、自分たちで見つけた知識を活用する場面を設定したりすることにより、全ての観点における学力の向上を目指す。

(5年) 「知識及び技能」が定着してきている。「数学的な見方・考え方」を働かせて授業や問題に取り組めていない。「思考力、判断力、表現力等」を育むため、子どもが問いを作るような問題場面の設定だけでなく考え方のまとめなど、教師が意識的に「数学的な見方・考え方」を育てる授業を行う。

(4年) これまでの指導で、知識・技能を身に付けさせることができている。引き続き、どの子にも分かる指導を行いながら、児童自らが考え、日常生活に生きていく力を身に付けさせる授業を行う。

(3年) 学力に差が顕現し始める頃である。また、自分の考えをもつように言われることを嫌ったり、早く正解を教えて欲しいと思っていたりする児童が多い。問題に対して自らの考えをもつ時間を取ったり、子どもたち同士で考えを共有したりしながら、「知識及び技能」と共に、自ら考える力を身に付けさせる授業を行う。

(2年) 基礎的・基本的な知識は身に付いている。知識及び技能の定着を目指しながら、自分の考えをもち、自ら解決しようとする力を身に付けさせたい。

(1年) 反復練習から、まず基礎を定着させる授業を行う。また、既習事項から自分の考えをもち、自ら解決しようとしたり、発表したりする力をつけさせる授業を行う。

【理科】

(6年) 実験や観察などを通して、児童一人一人の理科への興味、関心を向上させ、知識及び技能の習得に配慮をした授業をするよう心掛ける。また、ワークシートを活用し、学習の時間を確保するとともに、学習問題→予想→実験→まとめ(考察)と分かりやすい構成にすることで、

振り返りや復習が分かりやすくできるように配慮する。

(5年) 学習内容が日常生活に結びつくように、予想の時間を十分に取り、自分の力で考え、表現する力を伸ばしていきたい。

(4年) 既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説の発想、観察結果の学級全体での共有を通して、子ども達の問題解決能力を高めしていきたい。

(3年) 理科の基礎となる学年なので、学習問題→予想→実験→まとめ(考察)と分かりやすい構成にし、理科の学習の仕方を定着させる。

【生活】

(1・2年) 夢ファームでの活動では、土や虫に触れるのをいやがる児童がいるとともに、観察したことを絵や文章で表現することに課題のある児童が存在する。夢ファームやゲストティチャーなどを積極的に活用しながら、計画的な体験活動を設定したり、生き物の世話や観察をしたりしようとする意欲を高める。

【音楽】

(5・6年) パートごとや速度を変えるなど児童の実態に応じた練習ができるようなCDを作成し、スモールステップで技術の向上を目指す。表現をよりよくするためのポイントを提示し、自分たちで考え、表現する力を伸ばすようにする。

(3・4年) リコーダーや鍵盤ハーモニカの指導は、音を出す前に紙鍵盤や指練習を繰り返し行い、スモールステップで目標を提示し、つまずきをすぐに改善できるように配慮する。鑑賞では聴きどころを全体で共有しながら、何回も曲を聴かせる工夫し、鑑賞の力を伸ばしていくようにする。

(1・2年) 授業の流れを決めて提示し、視覚教材を活用することで進んで練習できる環境を整える。また、既習事項の振り返りをこまめに行うようにする。

【図画工作】

(1・2年) 基本的な道具の使い方や材料の使い方を身に付けさせる題材を設定し、それを基に児童が楽しみながら行える技能習熟の場を設定

する。また、道具や用具の正しく安全な使い方を分かりやすく説明したり、練習する時間を確保したりする。

表現遊びや他教科、生活体験を基に自分の表現を楽しめることができる題材を設定する。ごっこ遊びなどを取り入れた鑑賞の時間を設定し、作品の良さを認められる機会を確保し、自信をもって表現することを楽しくめるように工夫する。

(3・4年) 低学年で身に付けた力を基に、さらに多くの道具や材料に触れる機会を設け、学習の進度に応じたミニ教材や自由課題など、児童が楽しみながら行える技能習熟の場を設定する。また、道具や用具の正しく安全な使い方を分かりやすく説明したり、練習する時間を確保したりする。

自分の表現を楽しむことができる題材を設定する。ごっこ遊びなどを取り入れた鑑賞の時間を設定するとともに、言語による表現活動を鑑賞活動の中に取り入れ、作品の良さを認め合える機会を確保し、自信をもって表現することを楽しくめるように工夫する。

(5・6年) 低中学年で身に付けた力を基に、大単元の中で児童が楽しみながら行える技能習熟の場を設定する。また、道具や用具の正しく安全な使い方を分かりやすく説明したり、練習する時間を確保したりしながら、見通しをもって活動できるよう単元設定を行う。

自分の表現を楽しむことができる題材を設定する。鑑賞活動では、世界の名画や多くの表現について触れる機会を設け、自分たちの鑑賞活動に生かす機会を設定し、作品の良さを認め合い、自信をもって表現することを楽しくめるように工夫する。

【家庭】

(5・6年) 2年間を見通して基本的なものから段階的に、繰り返し学習できるようにする。

個別指導やグループ別指導を行うなど、技能や習熟の程度に合わせて学習形態を工夫する。

家庭との連携を積極的に行うことにより、既習事項の反復学習や日常化を実現し、知識および技能の定着を図る。

【体育】

(1・2年) 児童が興味関心をもち、自ら学習課題をもって基本的な動きや技能を身に付けることができる指導計画や場面の設定をする。

(3・4年) きまりを守り、誰とでも仲良く運動するために、順番を守ることの大切さや、互いの違いを認める場面を設定する。

ボール運動を行う際には、全力でボールを投げる場面を増やし、体全体を使って大きなフォームで投げることを意識させる。

(5・6年) 日々の授業では、自己やグループが取り組む運動について振り返る場面を設ける。また計画的に体づくり運動や器械運動などをバランスよく取り入れ、体力や技能の向上を図る。

【外国語活動】

(3・4年) 各時の学習活動のねらいに応じたゲームを設定し、外国語の発音を聞いたり発音したりすることで外国語に慣れ親しむ活動を増やし児童の意欲を引き出す。

互いに教え合う活動を取り入れ、外国語活動(英語)を通して児童同士のコミュニケーション能力を高めていく。

上手に英語を使うことだけでなく、コミュニケーションの楽しさを感じながら活動(すすんで英語に挑戦)していることを認め、称讃する。

【外国語】

(5・6年) 決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではなく、伝え合う目的や必然性のある場面を想定することで児童同士のコミュニケーション能力を高めていく。

各時の学習活動のねらいに応じたゲームを設定し、外国語の発音を聞いたり発音したりしていく活動を通して、相手に自分の思いが伝わる楽しさを感じられる体験をさせる。

A L Tとの交流やデジタル教科書等を積極的に活用することを通して、他国の文化に対する理解を深める。

【くわのみ：日常生活の指導】

- ・児童の実態に合わせ，具体的な場면을提示してコミュニケーション等の学習・生活意欲を向上させる。

【くわのみ：国語】

- ・絵カード等視覚的に提示し，語彙数を増やす。
- ・短い時間のスピーチなど伝え合う時間を設定する。
- ・記入欄を少なくしたり，大きな字が書けるようにしたりする。なぞり書きの多用，パソコン等の活用を行う。

【くわのみ：算数】

- ・問題数の少ないプリントから取り組ませ，できたら褒めていく。個人の習得段階によるプリントを作成していく。
- ・お金，重さや長さなどでは，具体物による操作活動を多く取り入れる。

【くわのみ：音楽】

- ・身体表現を多く取り入れたり，和太鼓，カップスなどの演奏でリズムを楽しんだりする。
 - ・動画の鑑賞や友達の演奏にも集中して耳を傾けさせるようにする。
- ※今年度は新型コロナウイルス感染症対策により，鑑賞や演奏を中心に授業を進める。

【くわのみ：図画工作】

- ・何を描いたか分かりづらいものでも，質問をせず，褒め，本人から話させ，主体性を伸ばす。
- ・一つ一つの工程を短くシンプルにして，できあがったことへの自信や達成感を数多く体験させる。
- ・手本や手順を視覚的に示すようにする。

【くわのみ：体育】

- ・なわとび，ランニング，リズム運動を継続的に取り入れ，様々な動きを体験させてそれぞれの動きの感覚統合をはかる。
- ※今年度は新型コロナウイルス感染症により，個別の運動を中心に進める。

【くわのみ：生活単元学習】

- ・身の回りの生活と関連させて，歩行訓練や作業が伴う具体的活動を学習させる。行事前学習を充実させ，主体的に取り組めるようにする。

【くわのみ：総合的な学習の時間】

- ・今年度は学年交流学习が少なくなっているが，内容を吟味し充実させ，主体的に取り組めるようにする。